



ひまわり



特集：3Bユニット(小児病棟)

茨城県立医療大学付属病院はリハビリテーション専門病院です。院内には3つの病棟があり、今回は小児病棟である3Bユニット(障害者施設等一般病棟)を紹介します。

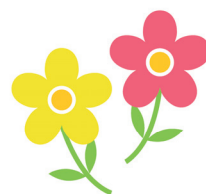
リハビリテーションは病気やケガによって失った機能に対して行われることが一般的ですが、子どものリハビリテーションでは、発達を促していきます。

また他児とのコミュニケーション能力や社会性を育てることも目的の一つとしています。

子どもにとって、日常生活そのものがリハビリテーションでありますが、加えて入院生活で専門的なリハビリテーションを同時に行うことで、それらが日常での生活動作に作用し合い、能力を最大限に引き出すことに繋がっていきます。



どんなリハビリテーションが行われているのかな？

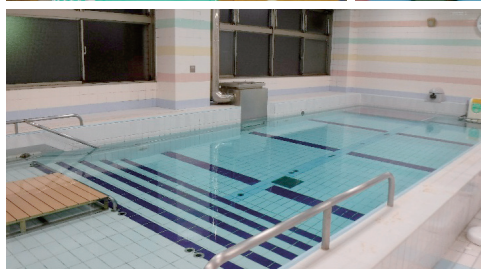


リハビリテーションのご紹介

<理学療法 (PT)>

変形の予防・改善や、呼吸機能、座る・立つ・歩くなど身体機能に対するリハビリテーション、装具・歩行器等の作製を行います。身体にベルトを装着し、そこから外側に向かって張られたゴム紐を用いてバランスの訓練ができるスパイダーがあり(右写真①)、重力の影響を軽減した状況で運動を経験することができます。

家庭での生活を考慮し、日常生活に取り入れられる内容をご家族と一緒に考えていきます。



<作業療法 (OT)>

多種多様な遊具・玩具・教材を用いて、お子さんの発達課題に合わせたリハビリテーションメニューを考えます。楽しんで遊ぶ中で課題に取り組み、経験を積むことで機能・能力の改善を図り、日常生活が行いやすくなるよう発達を促します。車いす・座位保持装置・日常生活用具等の相談作製(身体障害者手帳の利用)も行います。

<言語療法 (ST)>

言語発達・コミュニケーションでお困りのお子さんに、普段のやりとりの様子や各種検査の評価をもとに言語発達を促す練習やコミュニケーション支援を行います。発音でお困りのお子さんには発音練習を行います。幼稚園や学校といった、お子さんを取り巻く場所への助言も行います。



<臨床心理 (CP)>

知能・発達検査を行っています。積木等の検査用具を操作したり、絵を見たり、質問に答えることで、現在の知的発達状況、得意不得意を把握します。今後の課題を見つけ、お子さんに適した関わり方を考えます。必要時には心理面接・心理療法を行うこともあります。



<栄養科>

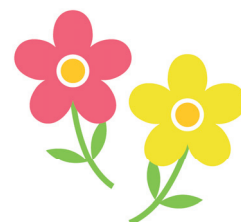
嚥下機能に合わせ常食だけではなく、刻み食やペースト食といった様々な食事形態を提供しています。ペースト食においても右の写真のように視覚的に楽しめる工夫をしております。また“行事食”を提供し、院内に感じにくい季節の変化を感じていただけるようにしております。



訪問学級

院内学級と聞くとまず勉強といったイメージがありますが、当院においては集中訓練の合間の気分転換の場ともなっています。

外の空気に触れ、天気を確認することや、外に行くことが難しい場合では、室内で音楽のリズムに合わせて身体を動かすこと、図画工作を行うことなど、個々の治療の状態、発達の状態に合わせて関わっています。



プレイルーム活動

プレイルームでは、入院生活によって不安やストレスを抱くお子さんの気分転換や、「楽しい」と思える体験を通して日常生活での成長発達支援を行っています。お子さん同士が仲良くなる場であると同時に、同じ悩みを持つ方々の交流の場ともなっています。また、さまざまなイベントも行っています。



～医師とお話会～
「水分摂取について」
「急変時の対応」
「移行期について」

～看護師とお話会～
「ケアノートについて」



感染症により病棟への出入りが制限されるなか、ゴブリン博士とリモートでのワークショップで、シールを用いて表情を作る遊びを行いました。「なんか似てるね。」とみんな作った人の表情が制作物に現れていました。ふしぎですね♪



シールの感触が
新たな発見!!



ゴブリン博士とは・・・

つくば市在住の現代アートアーティスト小中大地さんです。小中さんは物に表情をつけることで、それらに宿る妖精を制作するワークショップを開催し、様々な病院や施設に出現しています。当病院でも「梅ちゃん」と名づけられた妖精達の楽しい飾りつけがなされています。ぜひご覧いただき、お気に入りの梅ちゃんをお探し下さい。



小中大地さん



正面玄関：梅ちゃんから吹く風



小児外来：梅ちゃん製造工場

当院では、成長・発達を促すために医師、看護師、理学療法士、作業療法士（摂食機能評価を含む）、言語聴覚士、臨床心理士、管理栄養士、保育士、メディカルソーシャルワーカーなど多職種で行わせていただきます。

入院でのリハビリテーションをご希望の方はまず主治医にご相談下さい。入院相談は以下のように受け付けております。

当院外来通院中の患者さん・ご家族からの入院相談

主治医へご相談ください。入院申し込み手続きを行い検討します。

他院通院中の患者さん・ご家族からの入院相談

外来予約に関する相談は、予約専用電話へご連絡ください。

当院についての問い合わせは総合相談室へご相談ください。

予約専用電話：029-888-9201 9:00～12:00・13:00～15:00（土日祝祭日を除く）

総合相談室直通：029-888-9212 9:00～16:00（土日祝祭日を除く）

他院入院中の患者さんの転院相談（医療機関からのみの窓口です）

現在入院中の医療機関で転院の相談をします。紹介元の医療機関より当院地域連携室へ連絡調整の上検討します。

地域連携室：029-840-2980 10:00～12:00・13:00～16:00（土日祝祭日を除く）

茨城県立医療大学付属病院の理念

患者さん本位の、
安全で良質なリハビリテーションを中心とした医療を行い、
患者さんが住み慣れた地域で、
安心して、その人らしく生活できるように支援します。

●基本方針●

- 1 患者さんの尊厳を第一に考え、安全で信頼性の高い医療を行います。
- 2 より良いチーム医療を行い、質の高い医療を提供します。
- 3 先進的なリハビリテーション医療の開発と実践を通して社会に貢献します。
- 4 県内リハビリテーション医療のレベル向上に努めます。
- 5 医療人としての誇りと、豊かな人間性を持った医療専門職の育成に努めます。
- 6 健全な経営に努めます。

医療機関のみなさまへ

◆◆◆画像診断サービスのご案内◆◆◆

当院では、画像診断サービスを地域の皆様に提供しています。リハビリテーション関連の疾患に限らず、画像診断に関することは広くご相談に応じます。

※他の医療機関の医師からの紹介が原則です。

～検査内容～

- ・一般X線撮影
- ・X線骨密度測定
- ・CT検査
- ・核医学検査
- ・MRI検査
- ・超音波検査

●本サービスを希望される場合は、医療機関からの電話による予約が必要となります。

TEL：029-888-9213

FAX：029-888-9274

詳しくはホームページをご覧ください。



～令和4年度診療実績～

- 延外来患者数 17,265人
(1日平均 71.05人)
- 延入院患者数 32,861人
- 新入院患者数 561人
- 退院患者数 552人
- 平均在院日数 58.06日

当院へのアクセス



●鉄道・バスをご利用の場合

- JR常磐線 土浦駅または荒川沖駅で下車
- 土浦駅（西口）からバスで約25分
「阿見中央公民館」で、
「県立医療大学入口」下車、徒歩約8分
- 荒川沖駅（東口）からバスで約25分
「県立医療大学行」で終点下車、徒歩約3分

●お車をご利用の場合

- 常磐自動車道「桜土浦IC」より約25分



茨城県立医療大学付属病院

Ibaraki Prefectural University of Health Sciences Hospital

〒300-0331 茨城県稲敷郡阿見町阿見4733

TEL.029-888-9200(代) ホームページ <http://www.hosp.ipu.ac.jp/>

